

イーベン・トゥルジェーの伝記研究

A comparative study of the biographies of Eben Tourjée

安 田 寛*

Hiroshi YASUDA*

論文要旨

イーベン・トゥルジェーは日本の音楽教育の成立にもっとも貢献した人物であるにも関わらず、日本ではこれまで彼の伝記が紹介されたことがない。この小論は、これまでに書かれた彼に関する11点の伝記を比較検討し、記述の異同を明らかにし、正確なトゥルジェーの伝記を記述する際の一助とするものである。

キーワード：トゥルジェー、伝記、音楽教育史

日本の音楽教育の成立に貢献した人物として、トゥルジェーは、L・W・メーソン、目賀田種太郎、伊沢修二と同じほど重要な人物であるにも関わらず、日本ではトゥルジェーの伝記が紹介されたことがない¹⁾。

したがって、小論では、トゥルジェーの伝記史料を紹介し、それらを比較検討する。

これまで書かれた主なトゥルジェー伝の一覧は表1に示した。このうち、In Memoriam Eben Tourjéeは、備考に記した理由で比較の対象から省いた。

また、For God and Music, The Life Story of Eben Tourjée, Father of the American Conservatoryも比較の対象から省いた。その理由は、大著にも関わらず、個々の記述の出典が記されていないこと、比較的最近の著述であり、これ以前の主な伝記を参照して書かれていることから、これ以前の伝記を分析した後で、この著の個々の記述の出典を確認した後で、はじめて比較の対象になると考えたからである。

トゥルジェーの生涯は、表2に示したように、

彼の人生を左右した出来事を目安に五つの時期に分けて見ることができる。

トゥルジェーの伝記を述べようとするとき、一番の問題点は、一次史料がほとんどないことである。これに関係するが、1859年、25歳で、ロード・アイランド州イースト・グレニッチにあったプロヴィデンス・カンファレンス・セミナーの音楽科主任として招聘される以前の経歴、私の区分で言うと、彼の生涯の第1期と第2期についてとりわけ確実なことが不明である。

この問題の解決方法、つまりトゥルジェーの生涯について正確な情報を得るには、これまで書かれたトゥルジェー伝を比較検討し、経歴についての記述の異同に注意しつつ、個々の記述の初出、可能であれば、その出典を検討しなければならない。そのために、ここではトゥルジェーの各伝記によって、トゥルジェーの経歴についての年表を作成し、それらを比較することにした。その結果を表3、4、5に示した。

*弘前大学教育学部音楽科教室
Department of Music, Faculty of Education, Hirosaki University

表1 トウルジェーの伝記一覧

| 伝記 | 備考 |
|--|---|
| Nason, Rev. Elias. "A Sketch of the Lives of P. P. Bliss and Dr. Eben Tourjée" In <u>The American Evangelists</u> , Dwight L. Moody and Ira D. Sankey, 291-300. Boston: D. Lothrop & Co., Publisher, 1877. | 最初に書かれた伝記。 |
| anonymous, ed. In <u>Memoriam Eben Tourjée</u> . 1891. | 葬儀の際の牧師の弔辞。伝記に関して特に重要な情報を含んでいない。 |
| anonymous. "Dr. Eben Tourjée Dead." <u>Boston Globe</u> , April 13 1891, 4. | 新聞の訃報記事。 |
| "Obituary of Eben Tourjée." <u>Boston Musical Herald</u> , 1891, 83-84. | 新聞の訃報記事。 |
| Congdon, Jennie. "Eben Tourjée" 1907. | ニューボートでトウルジェーの生徒だった人物による回想記。 |
| Coburn, Frederick W. "Eben Tourjée." <u>Lowell Courier-Citizen</u> , May 21- June 20 1934. | トウルジェー生誕百年を記念した新聞連載。 |
| Coburn, Frederick W. "Tourjée, Eben." In <u>Dictionary of American Biography</u> , ed. Dumas Malone. 605. XVIII. New York: Charles Scribner's Sons, 1936. | 上記筆者による事典項目。 |
| Samuel, E. I. "An Amazing Career...Life of Eben Tourjée." <u>New England Conservatory Review</u> iii/2 (1913): 12-17. | 筆者は、マウント・ホリヨーク大学を卒業し、キューバで二年間働いた後、音楽院に勤務し、英語と心理学を教えていた。 |
| Tourjée, Leo Eben. "'God's Apostle of Music" Dr. Eben Tourjée, Musical Pioneer." <u>The Etude</u> (April 1947): 187, 194. | 筆者はトウルジェーの甥。 |
| FitzPatrick, Edward J. "Eben Tourjée's Rhode Island Roots." <u>Rhode Island History</u> 36 (1977): 81-91. | 筆者はボストン州立大学音楽部教授。トウルジェー伝に関する唯一の学術論文。 |
| Tourjée, Leo Eben. <u>For God and Music, The Life Story of Eben Tourjée, Father of the American Conservatory</u> . Los Angeles: unpublished typescript, c1960? | トウルジェーの甥が著した大部の伝記。個々の記述の出典は明記されていない。 |
| Eskew, Harry. "Tourjée, Eben." In <u>The new Grove Dictionary of American Music</u> , eds. H. Wiley Hitchcock and Stanley Sadie. 404-405. 4. Macmillan, 1986. | |
| Porter, Frank Addison. "Eben Tourjée." | 筆者は1934年当時、ニューイングランド音楽院の教員。筆記 年月日不明。 |

表2 トウルジェーの生涯の区分

| 時期 | 期間 | 区分の目安 |
|-----|----------------------------|-------------------------|
| 第1期 | 1834(誕生)から 1841(7歳)まで | |
| 第2期 | 1842(8歳)から 1858(24歳)まで | 働きはじめる |
| 第3期 | 1859(25歳)から 1866(32歳)まで | イーストグレニッチのセミナーの音楽科主任に就任 |
| 第4期 | 1867(33歳)から 1882(48歳)まで | ニューイングランド音楽院の創設 |
| 第5期 | 1883(49歳)から 1891(56歳)まで | 音楽院改組 |

表3 トウルジェー伝比較年表

| | 1834年（0歳） | 1842年（8歳） | 1845年（11歳） |
|-------------------------------|--|---|--|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | 6月1日 Warwick, R. I. に生まれる。 | | キリスト教に改宗し、すぐに Rev. George M. Brewster のメソジスト教会員になった。合唱団のアルト歌手として詩編を耳でうるおぼえで歌ったが、芸術として音楽の知識は無かった。 |
| Boston Globe, April 13 1891. | 6月1日 Warwick, R. I. に生まれる。彼の両親は豊かではなかった。 | イースト・グレニッチの更紗工場（Calico-printing Factory）で働く。その後、同じ町の毛織工場（wollen mile）で働く。お金を貯めて、イースト・グレニッチ・アカデミに入って学ぶ。 | 教会学校（church class）に所属した。 |
| Boston Musical Herald, 1891. | 6月1日 the town of Warwick に生まれる。 | 家族を助けるため働きはじめる。イースト・グレニッチのセミナリーに入学。 | |
| Samuel, E. I., 1913. | 6月1日 Warwick, R. I. に生まれる。彼の父は極めて安い賃金で綿工場（cotton mile）で働いていた。 | イースト・グレニッチの更紗工場（Calico-printing Factory）で働く。1日に14時間労働して、1ドルしか得られなかった。この後、近隣の Phoenix の毛織工場（wollen mile）に雇われた。 | |
| Porter, Frank Addison, ? | 6月1日 Warwick, R. I. に生まれる。 | イースト・グレニッチの更紗会社（Calico-printing establishment）で働く。1日に14時間労働して、週1ドル得た。 | |
| Coburn, Frederick W., 1934. | 6月1日にイーヴンを生んだ一家は貧しくて、重労働をする人たちであった。 | イースト・グレニッチの更紗工場（Calico mile）で働く。しばらくして、1日1シリングで、近隣の Phoenix の毛織工場（wollen mile）に雇われた。Phoenix は彼の故郷から数マイル内陸にあった。その後、Harri sville の cotton manufacturer で慈善家の Governer Elisha Harrison に雇用された。 | |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | 6月1日 mill town of Warwick, Rhode Island に生まれる。 | 父（mill worker）の傍らで働く。1日に14時間労働して、週1ドル得た。 | |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | 6月1日 Warwick, R. I. に生まれたイーヴンは Ebeneza と Angelina Ball Tourjée の第二子で長男であった。先祖はユグノーで、トウルジェーの家系は、1686年にイースト・グレニッチのフランス町で短期開拓地の2区画を得た Targe からはじまる。 | イースト・グレニッチの更紗工場（Calico mile）で働く。1日14時間働いて、週数ドルという低賃金であった。次に、Phoenix の毛織工場（wollen mile）で働いた。 | |

| | 1847年 (13歳) | 1849年 (15歳) | 1850年 (16歳) | 1851年 (17歳) |
|--------------------------------------|--|---|---|--|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | Gov. Elisha Harris は雇用していたトゥルジェーの音楽才能を認める。 | プロヴィデンスのEdward W. Billings music store の店員として働く | | Fall River で music store を開く。公立学校で教え, The Keynote 紙を発行。 |
| Boston Globe, April 13 1891. | Harrisville の綿工場 (Cotton miles) に雇用される。 | | | Fall River で music dealer (販売), The Key-Note を出版。貧しい生徒のために週一回, 15分 1 ドルでピアノ, ヴァイオリン, 声楽を教えた。560人の生徒を教えた。 |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | | Fall River で music store を開く。 |
| Samuel, E. I., 1913. | ロード・アイランド州知事 Elisha Harris の綿工場 (Cotton miles) の臨時雇い (helper) として Harrisville に行く。 | | | music dealer, 公立学校の音楽教師, The Key-Note 紙を発行。 |
| Porter, Frank Addison,? | Harrisville の Elisha Harris の綿工場 (Cotton miles) で働く。 | | | Fall River で music dealer (販売), 公立学校で教え, The Key-Note を出版。 |
| Coburn, Frederick W., 1934. | | | | The Key-Note を発行。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | | | Fall River で music store を開く。小さな音楽新聞を編集し, 公立学校で教える。 |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | Governer Elisha Harris が経営する Harrisville の綿工場 (Cotton miles) に雇用される。メソジスト教会合唱団のメンバーになりアルトを歌う。ハリスが理事をしていたイースト・グレニッチ・アカデミに入って教育を受ける。 | | プロヴィデンスの Edward W. Billings music store の店員として働く。 | |

| | 1853年 (19歳) | 1855年 (21歳) |
|-------------------------------|---|--|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | | The Keynote は The Massachusetts Musical Journal に併合された。10月31日に結婚。Fall River の店を閉めて、ニューポートに移る。 |
| Boston Globe, April 13 1891. | | |
| Boston Musical Herald, 1891. | | |
| Samuel, E. I., 1913. | 音楽院創設の賛同者を探しにボストンに出かけた。その後、わずかな自己資金で Fall River に音楽院 (Conservatory of his own) を開始した。 | ニューポートに移り、ニューポート音楽学校 (Newport Musical Institute) を開始した。10月結婚。 |
| Porter, Frank Addison, ? | | The Keynote は The Massachusetts Musical Journal に併合された。 |
| Coburn, Frederick W., 1934. | 音楽院創設の考えを抱き、ボストンに出かけた。賛同が得られず、わずかな自己資金で Fall River に音楽院を (Fall River Musical Institute) 開始した。500人を越える生徒が集まった。 | 紙名の変更はトウルジェーがプロヴィデンスから Fall River に移った時に起こった。5月1日に The Massachusetts Musical Journal の第一巻第一号が発行された。ニューポートに移った。10月に結婚。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | 彼の教室から600人の生徒が参加した音楽会を開く。 |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | 3年間の年季奉公の後、プロヴィデンスを去って、Fall River へ行く。11月5日, Fall River Monitor の広告, Tourjée's New Music and Fancy Goods Store, 69 North Main Street. トウルジェーは少人数の子どもに音楽を教えるとき学級組織 (Class System) を採用し始めた。彼が組織した音楽学校 (教室) や催し物は数日から1週間のものであった。 | East Greenwich's Weekly Pendulum の11月3日号によると、トウルジェーは10月31日に結婚した。新しい定期刊行物 Massachusetts Musical Journal に編入された、The Key-Note という小さな新聞を編集し、発行した。半月毎に発行されるこの新聞の第5号が、発行人欄に Fall River が記載されている最後の号である。次号からはボストンで発行された。1856年5月1日号の第2巻の編集人及び経営者は B. F. Baker で、新聞の名前も The Bosotn Musical Journal に代わり、これ以降トウルジェーの名前はない。 |

| | 1856年 (22歳) | 1857年 (23歳) | 1859年 (25歳) |
|-------------------------------|---|---|--|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | | | イースト・グレニッチにアカデミーを開くことに成功した。 |
| Boston Globe, April 13 1891. | | | イースト・グレニッチに音楽学校 (musical Institution) を設立。 |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | イースト・グレニッチに戻る。class teaching のアイデアを発展させる機会を得る。 |
| Congdon, Jennie, 1907. | | | ニューポートに来たばかりのトゥルジェーから夏に自宅でレッスンを受ける。この後すぐ彼はイースト・グレニッチのセミナーで音楽の担当として招聘された。 |
| Samuel, E. I., 1913. | | | |
| Porter, Frank Addison, ? | | | イースト・グレニッチに音楽学校 (musical Institution) を設立。 |
| Coburn, Frederick W., 1934. | | | 1859-60のプロヴィデンス・カンフェレンス・アカデミのカタログ (便覧) 「イーヴン・トゥルジェー, ピアノ, オルガン, 声楽, 和声, 発声の教師」。トゥルジェーは音楽科を独立したコンセルヴァトリにする提案をしたが, 理事会は冷たく聞いた。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | | イースト・グレニッチに戻る。East Greenwich Musical Institute を創設し, 3人の生徒からはじめる。 |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | The Fall River News の 1 月 31 日号は 2 月 14 日に新音楽ホールで開催されるトゥルジェーの子ども大音楽会の広告を載せている。春, トゥルジェーはニューポートで多くの子供たちを教えた。 | Fall River のディレトリには Ebenezer S. Tourjée (トゥルジェーの父) を 69 North Main Street (彼の息子の店の住所) の店員として登録している。不況により店を閉めることになる。The Fall River Monitor の 5 月 2 日号の広告「数日間限りトゥルジェーの店でピアノ安売り」。55年から57年までのディレトリでは父と息子は 69 North Main Street の店で働いている。次号1859年には名前がない。 | ニューポートで音楽を教え, 三一教会で音楽を監督した。イースト・グレニッチのプロヴィデンス・カンフェレンス・セミナーの音楽科の主任として招聘される。 |

| | 1860年 (26歳) | 1861年 (27歳) | 1862年 (28歳) |
|-------------------------------|---|--|----------------------------------|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | | | |
| Boston Globe, April 13 1891. | | | |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | |
| Congdon, Jennie, 1907. | | | |
| Samuel, E. I., 1913. | | イースト・グレニッチ・セミナリーの音楽科の主任 (directorship of the department of music) となる。 | |
| Porter, Frank Addison, ? | | | |
| Coburn, Frederick W., 1934. | 1859-60のプロヴィデンス・カンフェレンス・アカデミのカタログ(便覧)ではトゥルジェーは音楽科の主任として記載されている。 | セミナリーのカタログにはじめて妻の Abbie I. Tourjée がピアノ教師として記載。幹部によってセミナリーの名前に音楽学校 (Musical Institute) をつけ加えることが承認された。 | 1862-63のカタログ補足に音楽学校の特別カリキュラムが記載。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | | |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | | 三一教会の音楽委員会は12月9日に次のように報告した。優れた指導によって少年合唱が礼拝に必要な音楽を演奏できるようになったことに委員会は満足している。しかし、現在のオルガン奏者が他とも契約したので、これ以上の遂行が困難になった。それで、トゥルジェーとの契約を今月末でもって終了することを決定した。 | |

| | 1863年 (29歳) | 1864年 (30歳) | 1865年 (31歳) |
|--------------------------------------|--|---|---|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | ヨーロッパを訪問。音楽学校 (musical institutions) を視察。ベルリンの日曜学校でアメリカ式の歌唱を紹介するのに成功した。 | 公認のプロヴィデンスに音楽学校を創設。 | |
| Boston Globe, April 13 1891. | ヨーロッパ旅行。ドイツ、フランス、イタリーの音楽院で用いられているメソッドを学ぶ。 | | |
| Boston Musical Herald, 1891. | Conservatory methode of instruction を学ぶためヨーロッパを訪問。 | | |
| Samuel, E. I., 1913. | | セミナーの音楽科が大きくなったので、理事会は独立した学校にすることを決定。学校をコンセルヴァトリにしたいというトゥルジェーの提案は理事会から拒絶。 | |
| Porter, Frank Addison, ? | ヨーロッパを訪問。 | | |
| Coburn, Frederick W., 1934. | トゥルジェーははじめて海外旅行をした。ヨーロッパの音楽教育を視察するため。 | セミナーのカタログは音楽科の主任として Theodore W. Hopkins, B. A. を記載し、音楽科の説明はわずかに教科書のリストを載せただけのものであった。音楽教育に対するトゥルジェーのヴィジョンはメソジストの礼拝の限界を越えていた。 | 夏にイースト・グレニッチを去り、プロヴィデンスコンセルヴァトリを創設し、専念した。(グレニッチの)音楽学校の生徒が数人彼に従った。ミス・コンドンのペーパー、「戦争が終わった1865年にロード・アイランドの親戚を訪ねたとき、トゥルジェーはプロヴィデンスに音楽学校を創設していた」。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | パリ、ローマ、ベルリンを訪問。 | Providence Conservatory を創設。 | |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | 音楽学校の隆盛は他の部門から嫉妬され、理事会はメソジスト監督教会の宗教アカデミーを音楽学校の一部門にしたいはなかった。不快な状況から逃れるため、トゥルジェーは8月15日にヨーロッパへ旅だった。彼は大陸の音楽院を方法、教科書、特にカリキュラムなどあらゆる面から研究する計画を立てていた。 | 翌1月の州議会にかけるため、音楽院を創設するための請願書を12月付で提出。 | トゥルジェーは2月2日にプロヴィデンスの56 Weybosset Street に音楽学校 (musical institute) を創設した。11月20日までは、学校はトゥルジェーの音楽学校になり、住所はカレッジ通15の旧フランクリンハウスになった。 |

| | 1867年 (33歳) | 1868年 (34歳) | 1869年 (35歳) |
|--------------------------------|---|---|---|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | 2月18日, ボストンのミュージック・ホールに州から公認されたニューイングランド音楽院を設立。 | ウエズリアン大学 (Wesleyan University) から博士号が贈られる。同じ年, P. S. Gilmore の Grand Peace Jubilee で2万人の大コーラスを組織する。 | |
| Boston Globe, April 13 1891. | ボストンにニューイングランド音楽院を設立。 | | ウエズリアン大学 (Wesleyan University) から博士号が贈られる。同じ年, P. S. GilmoreのGrand Peace Jubilee でコーラスを組織する。 |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | ウエズリアン大学から音楽の博士号を授与される。 |
| Samuel, E. I., 1913. | | | Peace Jubilee で1万人の歌手がコーラスに参加するため集められた。 |
| Porter, Frank Addison,? | ボストンにニューイングランド音楽院を設立。 | P. S. Gilmore の要請で the Peace Jubilee のために大コーラスを組織する。ウエズリアン大学 (Wesleyan University) から博士号が贈られる。 | |
| Coburn, Frederick W. , 1934. | 2月13日にボストンで音楽院がはじまった。 | | ウエズリアン大学 (Wesleyan University) から博士号が贈られる。the National Peace Jubilee の大合唱の音楽監督。2万人の歌唱学校児童による大合唱。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | 音楽院をボストンに移す。 | | |
| FitzPatrick, Edward J. , 1977. | 2月に音楽学校はプロヴィデンス音楽院になった。2月18日には, ボストンのミュージック・ホールの7室を使ってニューイングランド音楽院がはじまった。 | プロヴィデンス音楽院を閉じる。Patrick S. Gilmore と Carl Zerrahan と一緒に Peace Jubilee を開催する。 | トウルジェーは a national music congress in Boston を開催した (3回目で終了, ビルジュ参照)。全国規模の最初の組織的な集会。ウエズリアン大学から名誉博士号を授与。 |

| | 1870年 (36歳) | 1871年 (37歳) | 1872年 (38歳) | 1874年 (40歳) |
|--------------------------------|--|------------------------------------|---|---|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | | | | |
| Boston Globe, April 13 1891. | Teachers' Association の特別の要請で、オハイオ州のクレヴェランド (Cleveland) で「公立学校に唱歌を」“Plea for Vocal Music in Public School” という講演を行う。 | | | |
| Boston Musical Herald, 1891. | | ボストンのYMCAの会長に就任。 | ボストン大学音楽部創設。 | |
| Samuel, E. I., 1913. | オハイオ州のクレヴェランド (Cleveland) で開催された National Teachers' Association で「公立学校に唱歌を」“Plea for Vocal Music in Public School” という講演を行う。 | North End Mission の president になる。 | Great Peace Jubilee 2万人の合唱。 | イースト・グレニッチのアカデミーで公立学校の音楽教師のために夏期学校を開催する |
| Porter, Frank Addison,? | National Teachers' Association で「われわれの公立学校の唱歌」“Vocal Music in our Public Schools” という講演を行う。 | ボストンのYMCAの会長 (President) に選ばれる。 | | |
| Coburn, Frederick W. , 1934. | | ボストンのYMCAの会長 (President) に選ばれる。 | ボストン大学音楽部が創設され、トゥルジェーは学部長に就任する。 | Normal Musical Institute (音楽師範学校) は初日に106人の教師と学生が集まった。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | | | |
| FitzPatrick, Edward J. , 1977. | | | Peace Jubilee. ボストン大学と提携。その音楽部はニューイングランド音楽院の事実上の大学院になった。トゥルジェーが学部長になった関係で、音楽院の卒業生に最初の音楽学士の資格が与えられた。 | New England Normal Institute (ニューイングランド師範学校) を組織する。主に公立学校の音楽教育に関心のある音楽院の生徒や他の人たちのための夏期学校。 |

| | 1876年 (42歳) | 1877年 (43歳) | 1882年 (48歳) | 1883年 (49歳) | 1891年 (57歳) |
|-------------------------------|--|---|--|--|--|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | | | | | |
| Boston Globe, April 13 1891. | | | | | 昨日 (4月12日一筆者注) 11時30分頃, 安らかに眠る。 |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | | | 4月12日、日曜日朝、死去。 |
| Samuel, E. I., 1913. | | | ミュージック・ホールが狭くなり, トウルジェーは若い女性のためのホーム (寄宿舍) を強く必要としたので, 聖ジェームスホテルを買った。 | | 4月の美しい日曜日に死去。 |
| Porter, Frank Addison, ? | | | | | |
| Coburn, Frederick W., 1934. | | | 収容しきれないほどの学生が集まった。トウルジェーは聖ジェームスホテルを買った。 | | 昨日 (4月12日一筆者注) 11時30分頃死去 (ボストン・グローヴからの引用一筆者注)。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | ボストンで開かれたムーディーとサンキーの信仰復活集会に2千人の合唱を組織して参加する。 | | | 4月12日朝、死去。 |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | 最初の Music Teachers National Association (MTNA) がオハイオ州デラウェアで開催され, トウルジェーは会長に選ばれる。 | | | 5月11日 音楽院にたいする権利, 財産所有権, 持ち株をすべて50人からなる理事会に譲渡する信託証書 “Declaration and Deed of Trust” を執筆。 | 4月12日死去。 |

表4 トウルジェーの初期教育比較年表

| | 1845年（11歳） | 1847年（13歳） | 1848年（14歳） |
|-------------------------------|--|--|---|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | | Harrisville (Warwick) の教会のオルガン奏者になる。これによって, Providence で音楽のレッスンを受ける。Old Round Top Church でオルガンの練習をする。 | |
| Boston Globe, April 13 1891. | | 村の教会のオルガン奏者に任命。 | |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | 礼拝に必要な曲をオルガンで弾くことをマスターした。 |
| Congdon, Jennie, 1907. | | | |
| Coburn, Frederick W., 1934. | 教会の合唱団員となった。彼のアルトの声に感心したハリスはトウルジェーにオルガン奏者になるように勧め、トウルジェーはオルガン奏者になった。ハリスの援助でプロヴィデンスでレッスンを受ける。この時期彼は経済が許す限り、イーストグレニッチセミナリーに出席した。 | | |
| Samuel, E. I., 1913. | | | 村の教会のオルガン奏者に任命。知事の援助で、プロヴィデンスで声楽、ピアノ、オルガンのレッスンを受ける。この時期家計が改善したので、イースト・グレニッチ・アカデミに通った。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | | |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | | Governer Elisha Harris が経営する Harrisville の綿工場 (Cotton miles) に雇用される。メソジスト教会合唱団のメンバーになりアルトを歌う。ハリスが理事をしていたイースト・グレニッチ・アカデミに入って教育を受ける。ハリスの援助でプロヴィデンスで声楽のレッスンを受ける。イーストグレニッチのメソジスト教会でオルガンを弾き、アカデミーでピアノを練習した。毎週土曜日にプロヴィデンスで声楽とピアノのレッスンを受けた。 | |

表5 トウルジェーと教会の比較年表

| | 1847年 (13歳) | 1848年 (14歳) | 1853年 (19歳) | 1855年 (21歳) |
|-------------------------------|---|---------------------------|---|--|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | Harrisville (Warwick) の教会のオルガン奏者になる。Providence でレッスンを受ける。 | | | Fall River の店を閉めて、ニューポートに移る。第一バプティスト教会のオルガニストを1年間勉める。その後、4年間、三一教会で。 |
| Boston Globe, April 13 1891. | 村の教会のオルガン奏者に任命。 | | | |
| Boston Musical Herald, 1891. | | 礼拝に必要な曲をオルガンで弾くことをマスターした。 | | |
| Congdon, Jennie, 1907. | | | | |
| Porter, Frank Addison, ? | | | | |
| Coburn, Frederick W., 1934. | | | | |
| Samuel, E. I., 1913. | | 村の教会のオルガン奏者に任命。 | | ニューポートに移る。バプティスト教会のオルガン奏者に任命。その後、三一教会のオルガン奏者、合唱教師になった。三一教会の少年合唱団の監督になる、ニューヨークの合唱祭に招待される。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | | | |
| FitzPatrick, Edward J., 1977. | イーストグレニッチのメソジスト教会でオルガンを弾いた。 | | 3年間の年季奉公の後、プロヴィデンスを去って、Fall River へ行く。彼はいくつかの教会で聖歌隊 (vocal classes) を指揮し、オルガンを弾いた。その中には、Fall Riverのバンクストリートメソジスト教会、ニューポートの有名な三一教会がある。 | |

| | 1859年 (25歳) | 1862年 (28歳) | 1870年代 (36歳～) | 1871年 (37歳) |
|--------------------------------|---|--|--|------------------------------------|
| Nason, Rev. Elias, 1877. | | | | |
| Boston Globe, April 13 1891. | | | | |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | | ボストンの YMCA の会長に就任。 |
| Congdon, Jennie, 1907. | 彼は三一教会のオルガン奏者であった。彼はニューポート唯一の少年合唱を持っていた。彼はしばしば招待されニューヨークの三一教会に合唱団をつれていった。 | | | |
| Porter, Frank Addison, ? | | | | ボストンの YMCA の会長 (President) に選ばれる。 |
| Coburn, Frederick W. , 1934. | 彼はニューポート唯一の少年合唱を持っていた。彼はよくニューヨークの三一教会に合唱団と一緒に招待された。 | 1872年10月4日の Pendulum 紙はメソジスト教会の10年前のオルガンの交換について述べている。新しいオルガンはトゥルジェーの資金的努力で買われたものである。彼は長い間この教会の日曜学校を指導した。トゥルジェーは教会で歌うことは学校の仕事内だと考え、生徒たちは教会の歌唱に加わるように期待された。彼の生徒の合唱はニューイングランドのどのメソジスト教会のそれよりも素晴らしかった。 | 12年間 Auburndale のメソジスト教会の監督をしていた。 | ボストンの YMCA の会長 (President) に選ばれる。 |
| Samuel, E. I., 1913. | | | パークストリート教会の音楽監督, テンプル通メソジスト監督教会の合唱を指揮した。 | North End Mission の president になる。 |
| Tourjée, Leo Eben, 1947. | | | | |
| FitzPatrick, Edward J. , 1977. | | | | |

| | c1877年 (43歳) | ? (?歳) | 1877年 (43歳) |
|-------------------------------|--|---|---|
| Nason, Rev. Elias, 1877 | 長い間日曜学校の監督であった。慈善事業ノース・エンド・ミッションの会長であった。ボストンのYMCAの会長で、現在は the Boston Missionary and Church Extension Society of the Methodist-Episcopal Church の会長である。彼は最近 (1876) NMTA の会長に選ばれた。 | | |
| Boston Globe, April 13 1891. | | 彼はボストンのY M C A, City Missionary Society, NMTAの会長である。 | |
| Boston Musical Herald, 1891. | | | |
| Congdon, Jennie.1907. | | | |
| Porter, Frank Addison.? | | | |
| Coburn, Frederick W. , 1934. | | | |
| Samuel, E. I., 1913. | | | |
| Tourjée, Leo Eben,1947. | | | ボストンで開かれたムーディーとサンキーの信仰復活集会に2千人の合唱を組織して参加する。 |
| FitzPatrick, EdwardJ. , 1977. | | マサチューセッツ州 Auburndale のメソジスト教会の子どもの日曜学校を12年間監督した。ノース・エンド・ミッションを組織し, Y M C A と Boston Missionary Society の会長であった。 | |

注1 正確に言うと、手代木俊一氏の紹介（手代木俊一『讃美歌・聖歌と日本の近代』、音楽之友社、1999年、177-179頁）がある。しかし、これは問題の多い紹介である。彼は、トゥルジェーの伝記の記述の参考文献として、注で4点ほど挙げているにも関わらず、本文の記述は、もっぱら The New Grove Dictionary of American Music の項目「Tourjée, Eben」の大まかな翻訳に終始している。しかも、この事典のトゥルジェーの記述自体、信頼性の点で問題がある。

項目「Tourjée, Eben」に手代木氏が付加したものは、「彼の中では音楽とキリスト教が強く結びついており、彼自身『音楽は、われわれを天国に導く神の声である』（Tourjée, Leo Eben, 1947）、「社会的には、ボストンYMCA、ボストン・ミッショナリー・ソサエティ、ノース・エンド・ミッション・ソサエティ等の会長を歴任した」（anonymous. Obituary of Eben Tourjée. Zion's Herald, 15, April 1891）、1876年に組織された、Music Teachers National Assosiation の「副会長にL・W・メーソンがいる」（典拠は示されていないが、例えば、Howe, Sandra Wieland. “Luther whiting Mason: contributions to music education in nineteenth-century America and Japan.”

Ph. D., University of Minnesota, 1988. P.64.)の3点である。

その他には、「このニューイングランド音楽院には、政府給費留学生の第1号である幸田延が留学（明治二二〔一八八九〕—二三〔一八九〇〕年）している」（中村理平『洋楽導入者の軌跡—日本近代洋楽史序説』（刀水書房、1993年）544頁。）、「現在でも多くの日本人が留学しており、また近年はオルガンの主任教授を林佑子が勤めるなど日本との関係は深い」の2点を付け加え、最後に唐突に「彼のキリスト教伝道の意識が海外に向けられた時、メーソンの日本への派遣が計画され、そして実現したわけである」（それ自体重要なこの指摘の先行研究を手代木氏はふれていないが、以下のものである。安田寛「唱歌導入の起源について」（『山口芸術短期大学研究紀要』第二五巻、1993年）16頁、安田寛「唱歌導入史に関する資料紹介」（『山口芸術短期大学研究紀要』第二六巻、1994年）18頁、安田寛「L・W・メーソンの再来日計画とアメリカン・ボード日本ミッション」（『キリスト教社会問題研究』第四四巻、1995年）111-113頁。）という一文で略歴の記述を結んでいる。